

普天間は宜野湾間切設置までは中城間切の一部でした。「今帰仁掟宛辞令書」には「中くすくまきりのふてま」とあり、1671年までの記録では「寺ふてま」と見られます。『琉球国由来記』には「普天間村」で野嵩ノロが麦と稲の四祭を行ったことが記されています。



間切図 (沖縄県立博物館・美術館所蔵)

1908(明治41)年、宜野湾村誕生時に「普天間村」から「字普天間」へと変わり、官公庁が置かれ1922(大正11)年の沖縄県営鉄道開通に伴う乗合馬車の登場も相まって、戦前まで中頭の中心地として賑わいました。



普天間と並松 1938(昭和13)年

戦後は民間人収容所があった野嵩と、あふれた人々が暮らした普天間を中心に復興が始まりました。かつての集落の南東側を新たな居住地とし、1953(昭和28)年には軍道5号線の西側で区画整理が行われ、米軍人相手の飲食店や映画館等が立ち並び繁華街となりました。また、野嵩にあった宜野湾村役所は1958(昭和33)年に普天間へ移転し、1962(昭和37)年に市役所となり1980(昭和55)年まで所在しました。市役所移転後も市内の商業地域として賑わっています。



宜野湾村役所 1962(昭和37)年

中頭の中心地、普天間

普天間には古くから金武・具志川・与那城・勝連・泡瀬方面から那覇へ往來する荷馬車引きたちが、馬に餌を与えて休憩させる馬車宿小(休憩所)がありました。大正初期には中頭高等小学校をはじめとして多くの官公庁が置かれ、中頭郡の行政や教育の中心となりました。



中頭高等小学校

1922(大正11)年には沖縄県営鉄道開通に伴って、普天間を起点に大山駅までの連絡用乗合客馬車(6人乗り)が登場し、通行人の便宜を図りました。神宮前や並松沿いには商店が立ち並び、沖縄各地や日本から移住して来て商業を営む者も多く、中頭の中心地として賑わいました。

1937(昭和12)年当時、字普天間で第一次産業(農業・畜産等)に従事する戸数は字に占める割合の約57%と極めて低く、90%前後が第一次産業に従事していた宜野湾村の中では突出して脱農化していたようです。



昭和20年頃の商店街

普天間 歴史文化遺産マップ

2 普天満宮



『琉球神道記』には普天間権現と記されており、熊野三所大権現を祀る琉球八社の一つです。縁起には首里桃原の糸を紡ぐ美女

の神隠しの話や安谷屋の百姓夫婦に黄金を授けて救済した話があります。古くから民間信仰の対象で、国王の普天間参詣をはじめとして、普天間宮に参拝する風習は定着していました。戦後、普天満宮と改められました。

3 普天満宮洞穴



普天満宮の境内にある長さ約280m、高さ4~6m、幅1~3mの洞穴です。洞内には発達したつらら石・石筍・石柱などの鍾乳石と、御神体や

土着の神々が合祀されるおくみやが存在しています。入口付近では数万年前のシカの化石や縄文時代の遺物などが見つかりました。市の指定文化財(名勝)です。

4 普天満山神宮寺



『琉球神道記』には普天間権現神宮寺と記されており、正観世音菩薩と共に熊野権現を併せ祀った真言宗寺院です。毎年旧暦八月の十五夜には獅子舞が奉納され、寺は護符を無料で配布しました。



1 合祀場



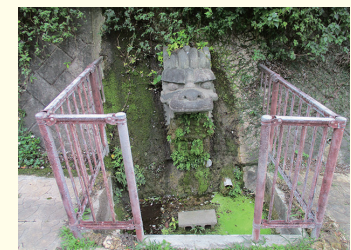
戦災や米軍の土地接収により旧集落内にあった聖地のほとんどが消失したため、1959(昭和34)年に現在の場所へ神アシャギナー(庭)・島御殿・火の神・みるく神・獅子神、普天間樋川・村ガー・下の泉(シムガーヌミジナシガー)・上の泉(ダキヌーウィヌミジナシガー)を移設しました。聖地以外にも慰霊塔や記念碑が建立され、獅子も保管されています。新しい聖地として郷友会によって年中祭祀が執り行われています。

6 沖縄平和祈念像「原型」



沖縄戦で二人の息子を亡くし自身も戦争体験者である山田真山が、沖縄戦終結13回忌を機に2度と戦争を繰り返さないことを発願して制作を始めた恒久平和の像です。18年の歳月を経て原型を完成させました。今後、修復し公開する予定です。

7 上の泉



普天間の拝所となっているカー(湧泉)です。旧暦三月にはイヌカーと普天間の北側にあるシムガーを隔年で拝みました。平成に入り道路工事の際に水脈が切られ、現在の場所から水が湧き出したため、龍頭が取り付けられました。

5 県立農事試験場 普天間試験地



農業の試験研究機関の中心として1923(大正12)年に設置されました。特にサツマイモの品種改良では栽培しやすい「沖縄100号」や3カ月で収穫できる「比謝川1号」といったイモが作り出され、戦中・戦後の食糧難に人びとの命を救いました。現在も普天間高校内には試験場に植えられた植物の一部が残っています。

Table with 3 columns: Year (西暦), Year Name (年号), and Event (出来事). It lists historical events from 1559 to 2015, including the founding of Uchinakima, the opening of the railway, and the establishment of various institutions.